

□海外文献紹介□

内視鏡的ポリペクトミー
後の追跡コロノスコーピー

Repeat colonoscopy after endoscopic polypectomy: *Holtzman R, et al* (Dis Colon Rectum 30: 185-188, 1987)

1979年12月より82年12月までの1,184例の大腸内視鏡検査のうち352例にポリペクトミーを施行した。このうち癌のあった例や早期癌は除外し、またIBDやFPCを除外し、腺腫だけの149例について、1年から4年追跡調査した。使用機種はCF-IT 10である。また見逃し例を防ぐため、10か月以内に発見されたポリープは見落としと判定し、再発見後から追跡開始とした。

149例に計389回の検査がなされ、75例(50.3%)で新たにポリープ

が出現し、74例(49.6%)は追跡されたがポリープは出なかった。75例のポリープ再発例を更に追跡したところ、40例が再びポリープ出現、この40例のうち21例(52%)が再びポリープが出現した。またこの21例の中から4例が更にポリープが発生した。この期間をみると、初回ポリペクトミー後2年以内に大多数でポリープが認められていた。一方、再検査でポリープのみられなかった74例のうちでは20例しか再検査されなかったが、この中で7例にポリープが認められた。

初回ポリープのあった部位と再発ポリープの関係をみると、同じsegmentに34%がみられた。また新たにポリープができやすい因子を検討したが年齢・性・ポリープの大きさ・異型の程度は関係なく、ただ、

初回ポリープ数の多いものだけが、統計的に有意の差がみられた。追跡中、癌の出たものは2例であった。合併症は5例で、穿孔1例、出血1例は手術、3例の出血は入院を要した。

大腸内視鏡登場以前の報告では、ポリペクトミー後のポリープ出現率は21~41%とされている。大腸内視鏡での追跡では、30~61%との報告がある。今回53か月の追跡で51%にポリープが再発し、2年以内にその81%が出現した。このことからポリペクトミー後3年間は毎年追跡し、2回続けてポリープがなければ、2~3年あけて追跡すればよいと思われる。

(関東通信病院消化器内科

桜井幸弘 抄)